

# 図書館利用実態の可視化と 分析（2022年度版）

中央大学 iTL 飯尾淳

- ・ 2018年の利用状況データを過去に分析
  - ・ 飯尾淳 (2019) 図書館利用データの可視化による利用状況分析 ― 八王子市図書館を例として ―, 第18回情報科学技術フォーラム (FIT2019), 講演論文集第3分冊, pp. 325-326, 岡山
- ・ 今回は2022年データを対象に再度, 分析

- ・ 八王子市図書館の利用実態を地域別・世代別に明らかにする
- ・ 利用者数を向上させる施策を提案する

- ・ 2022年度（令和4年度）図書館利用データ
  - ・ 登録者数 …… 地域ごとの利用登録者数
  - ・ 実利用者数 …… 2022年度に1回の利用者の数
  - ・ 貸出回数 …… 2022年度に貸し出された回数
  - ・ 貸出冊数 …… 2022年度に貸し出された冊数
- ・ 住民基本台帳人口
- ・ 図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査 …… 2019年度（令和元年度）に行なわれた質問紙調査（n = 5,000）

- ・ 地区  $i$  における来館者密度  $d_i$  の定義
  - ・ 地区  $i$  の図書館利用者  $n_i$  と住民総数  $R_i$  を用いて来館者密度を  $d_i = n_i/R_i$  で定義する
- ・ これらの来館者密度は八王子市内の各図書館  $j$  ごとに計算され, これらに関して来館者密度が最大になる地区の値  $\max_i\{d_i\}$  を用いて来館者密度比  $D_i$  を  $D_i = d_i/\max_i\{d_i\}$  で定義する

- ・ 来館者密度比は一般的に以下の性質を持つ
  - ・ 最も近い地域（図書館を含む地区）が1.0となる
  - ・ 図書館から離れるに従い，その値は減衰する
- ・ 全図書館に対する来館者密度比  $\bar{D}_i$  を次で定義する

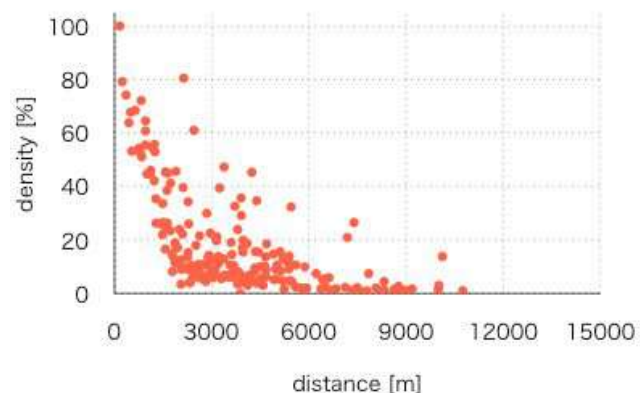
$$\bar{D}_i = \max_j \{D_i(j)\}$$

- ・ なお，ここで  $D_i(j)$  は図書館  $j$  に対する地区  $i$  の来館者密度比とする（つまり各図書館に対するその地区の来館者密度比で最大となる値を市内全図書館に対する来館者密度比として取り扱うということ）

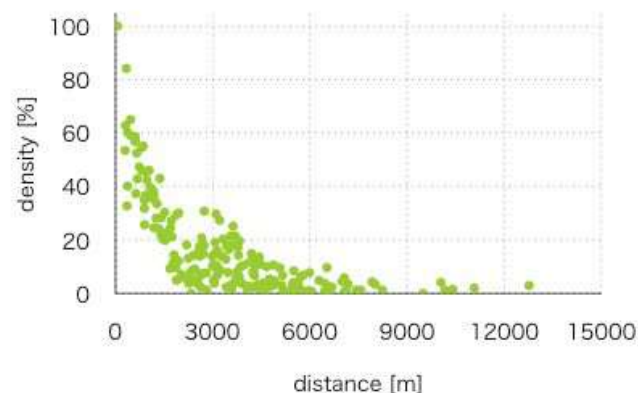
# (参考) 来館者密度比と距離の関係



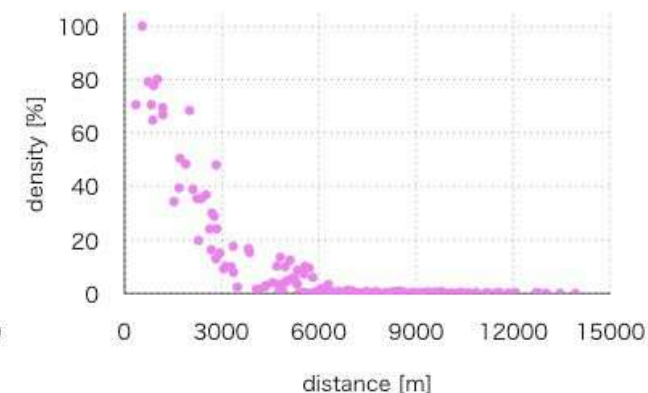
中央図書館



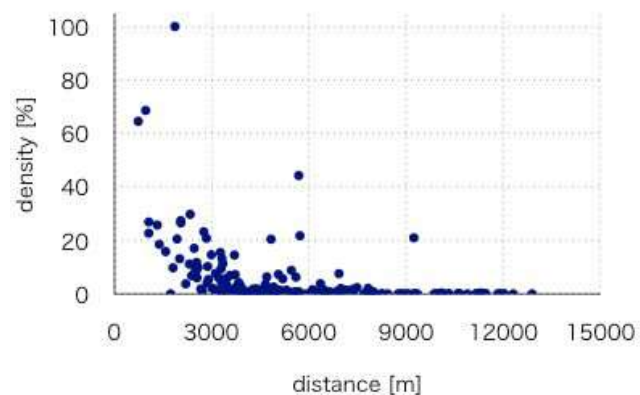
生涯学習センター図書館



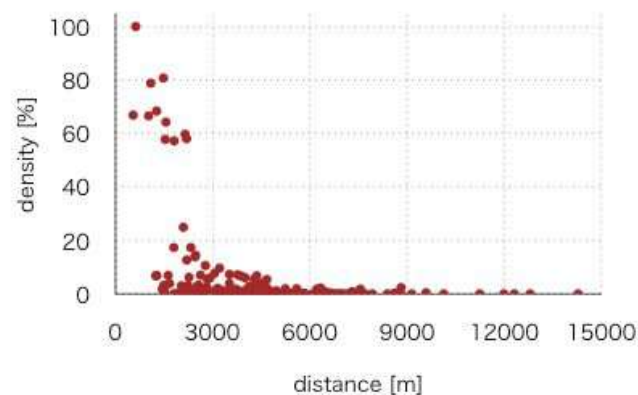
南大沢図書館



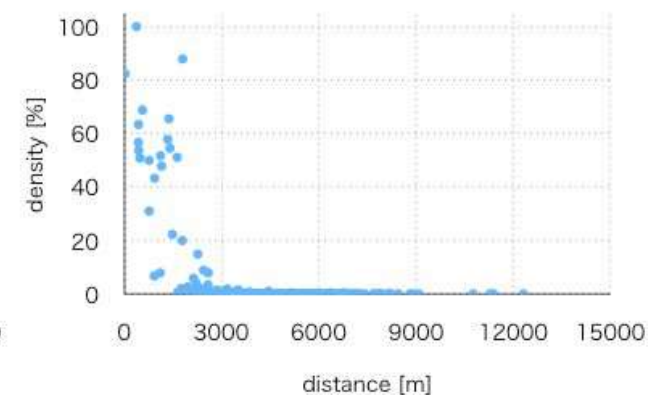
川口図書館



北野分室

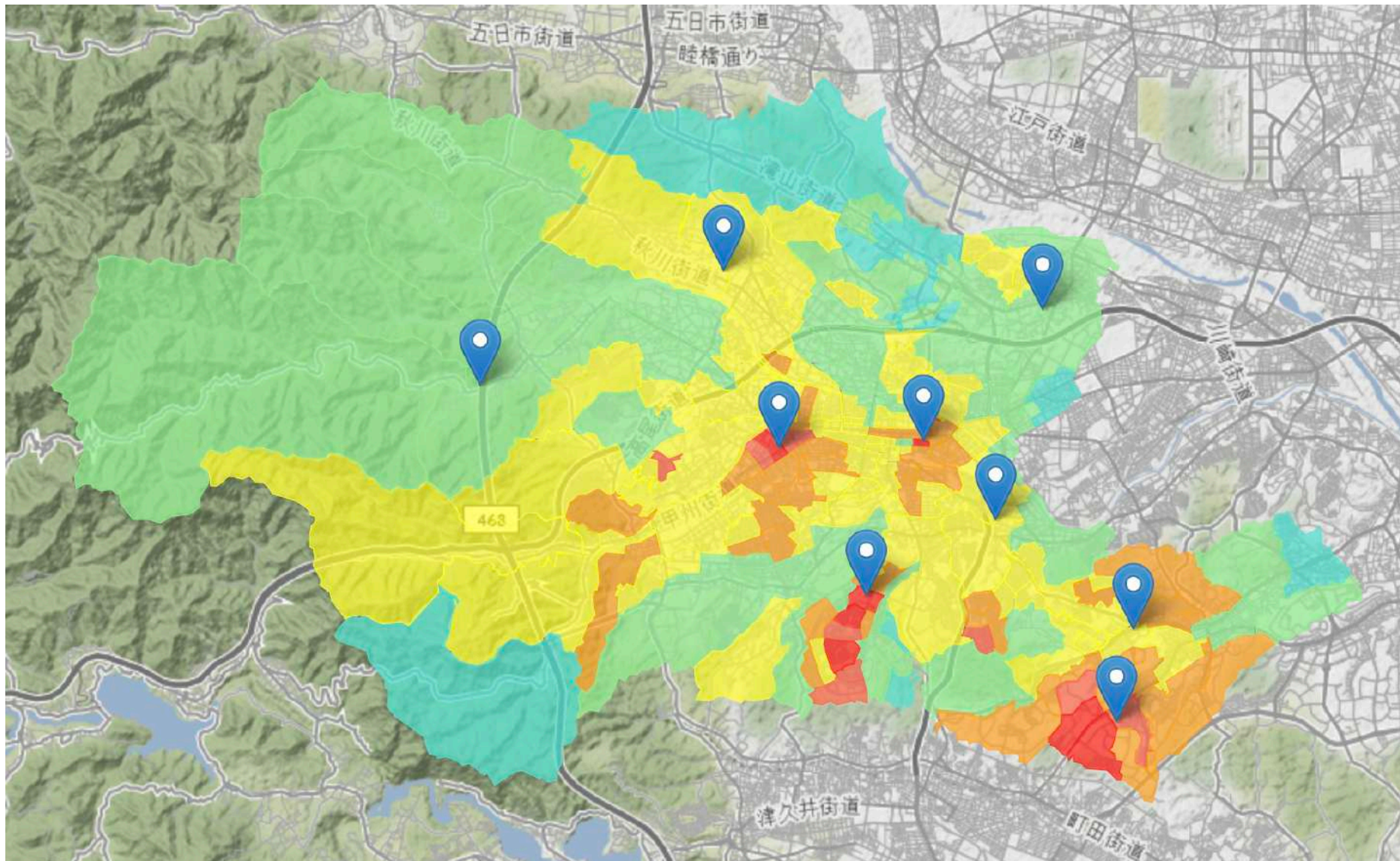


みなみ野分室



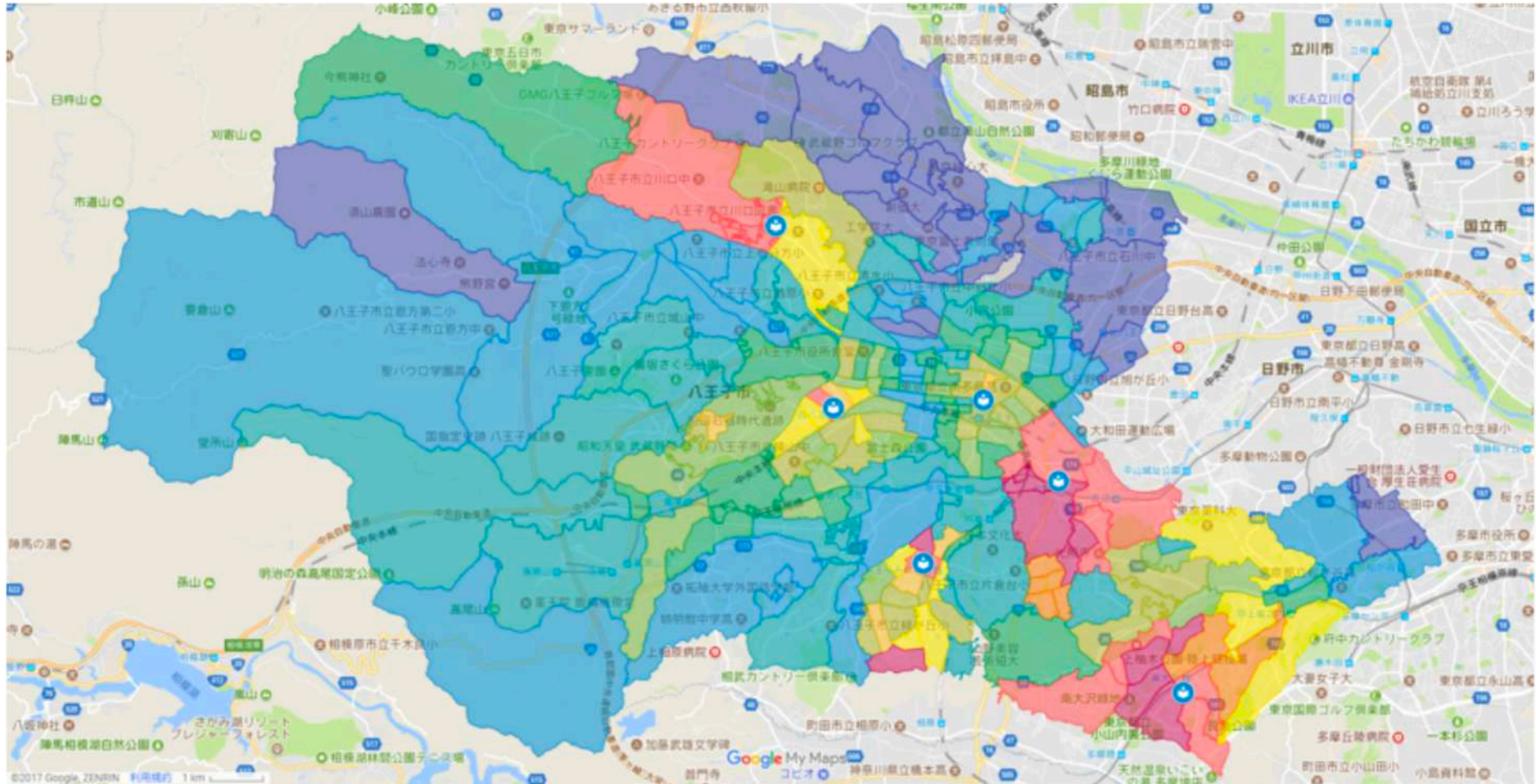


# 来館者密度比（2022年：全体）

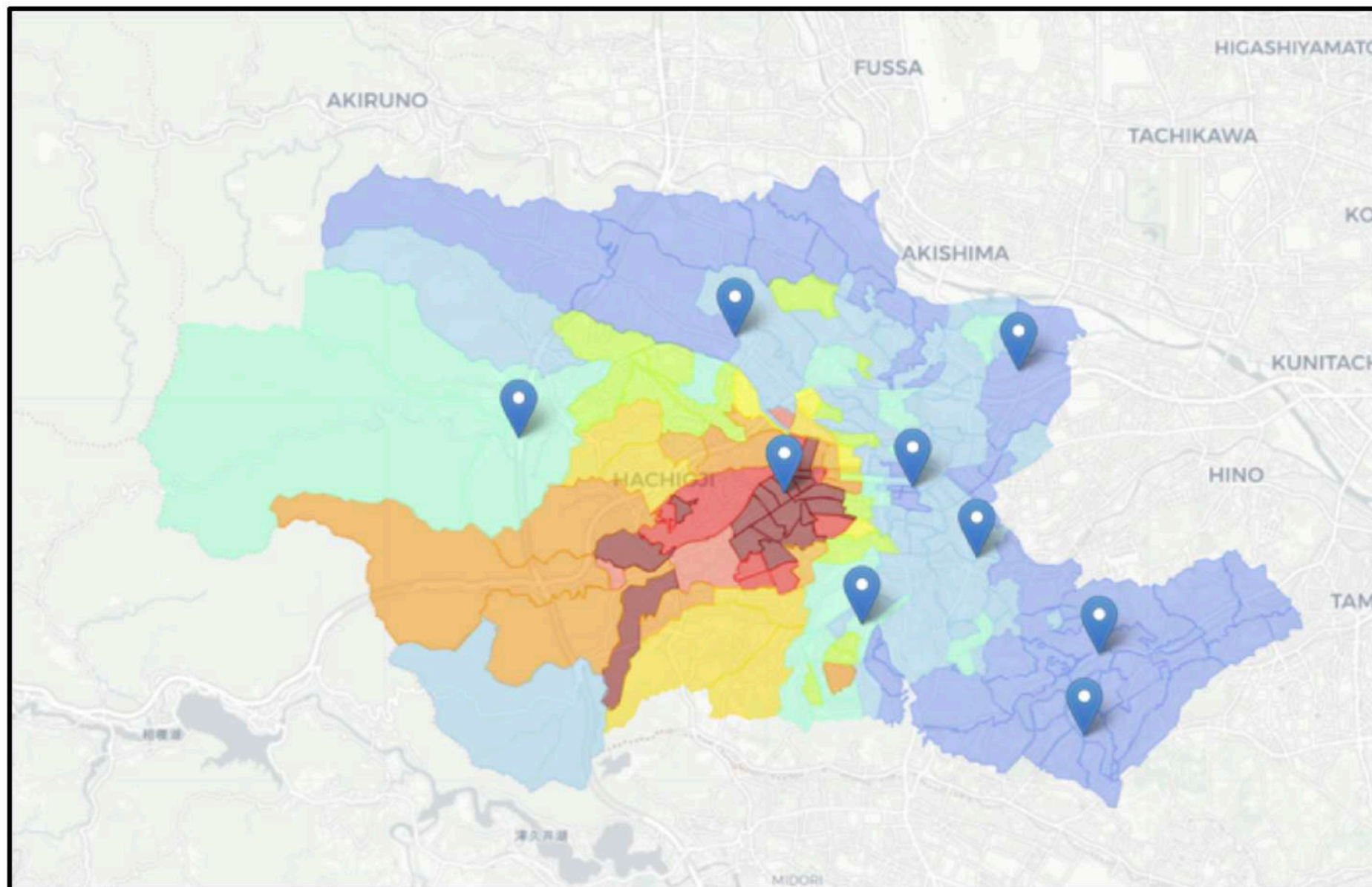




# (参考) 2018年のデータ

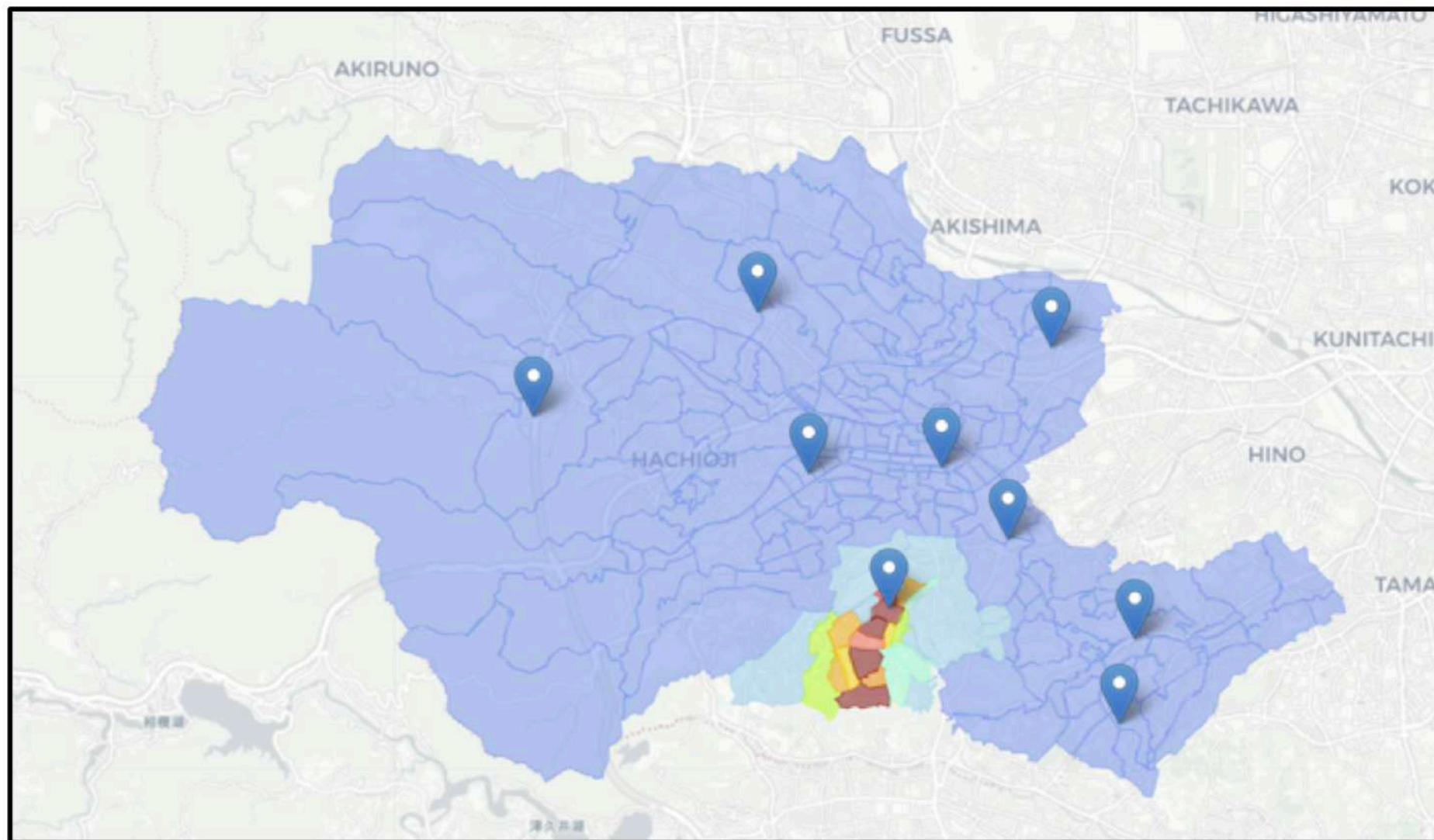


# 利用実態（中央図書館：広域型）

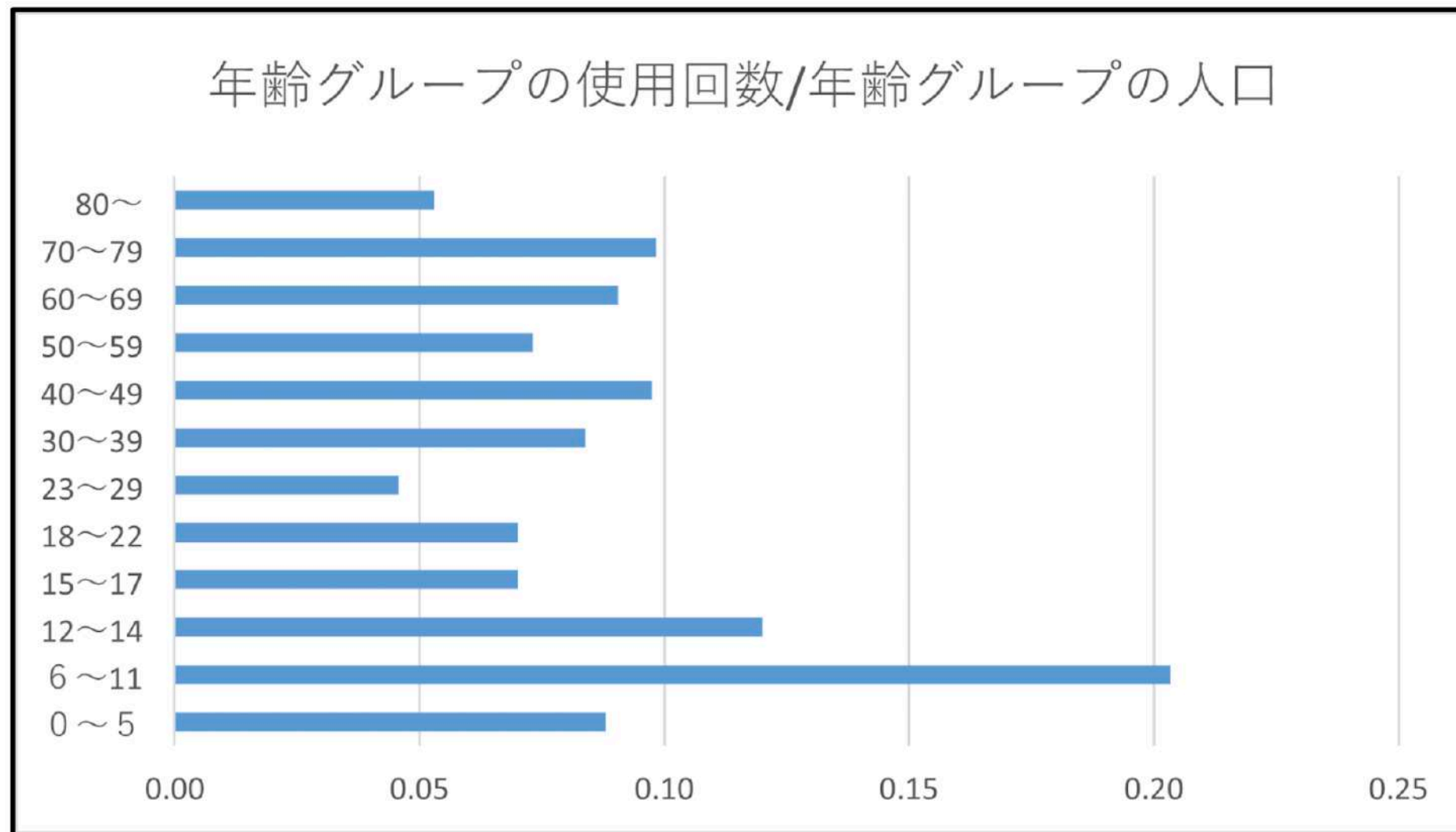




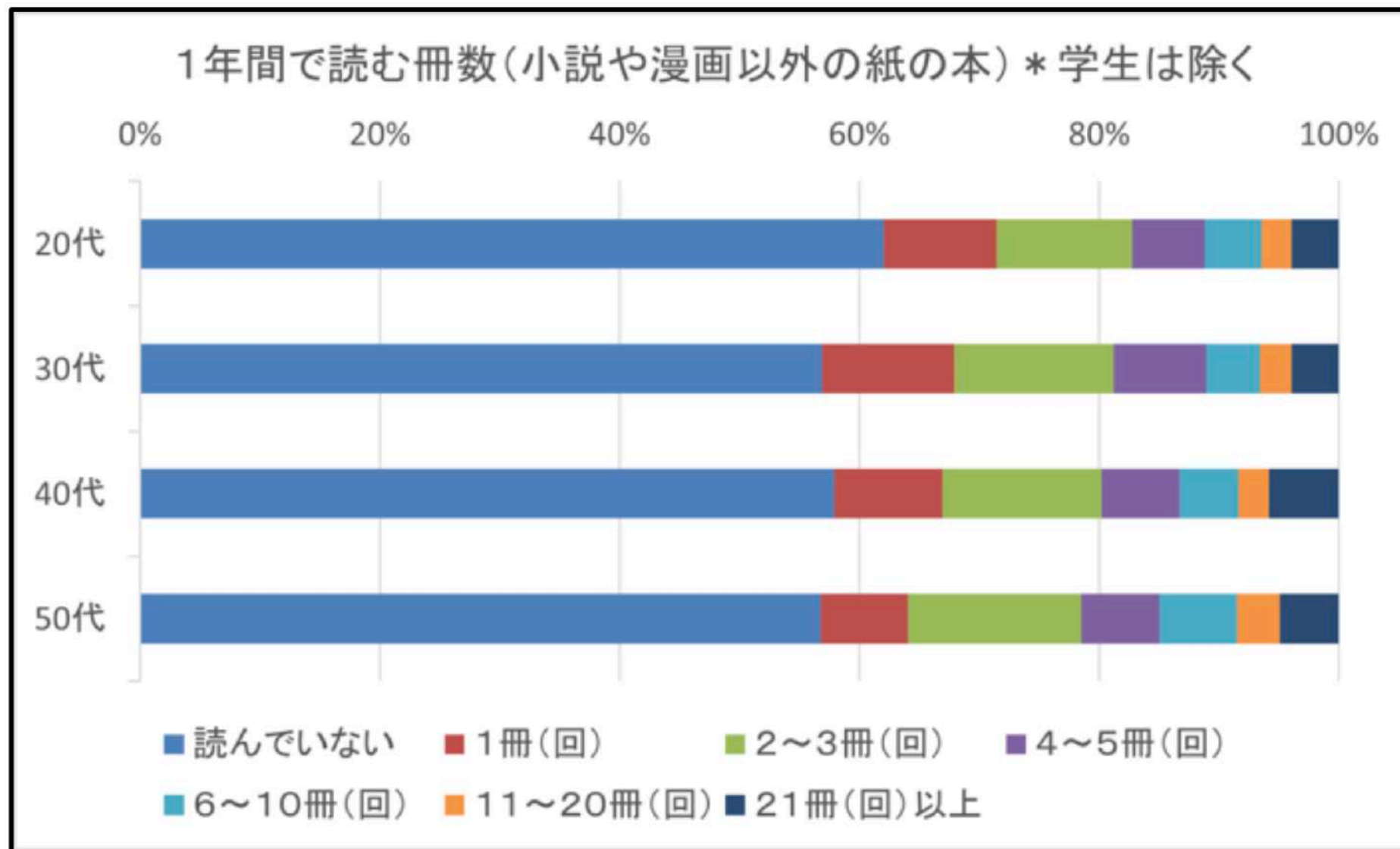
# 利用実態（みなみ野：地域型）



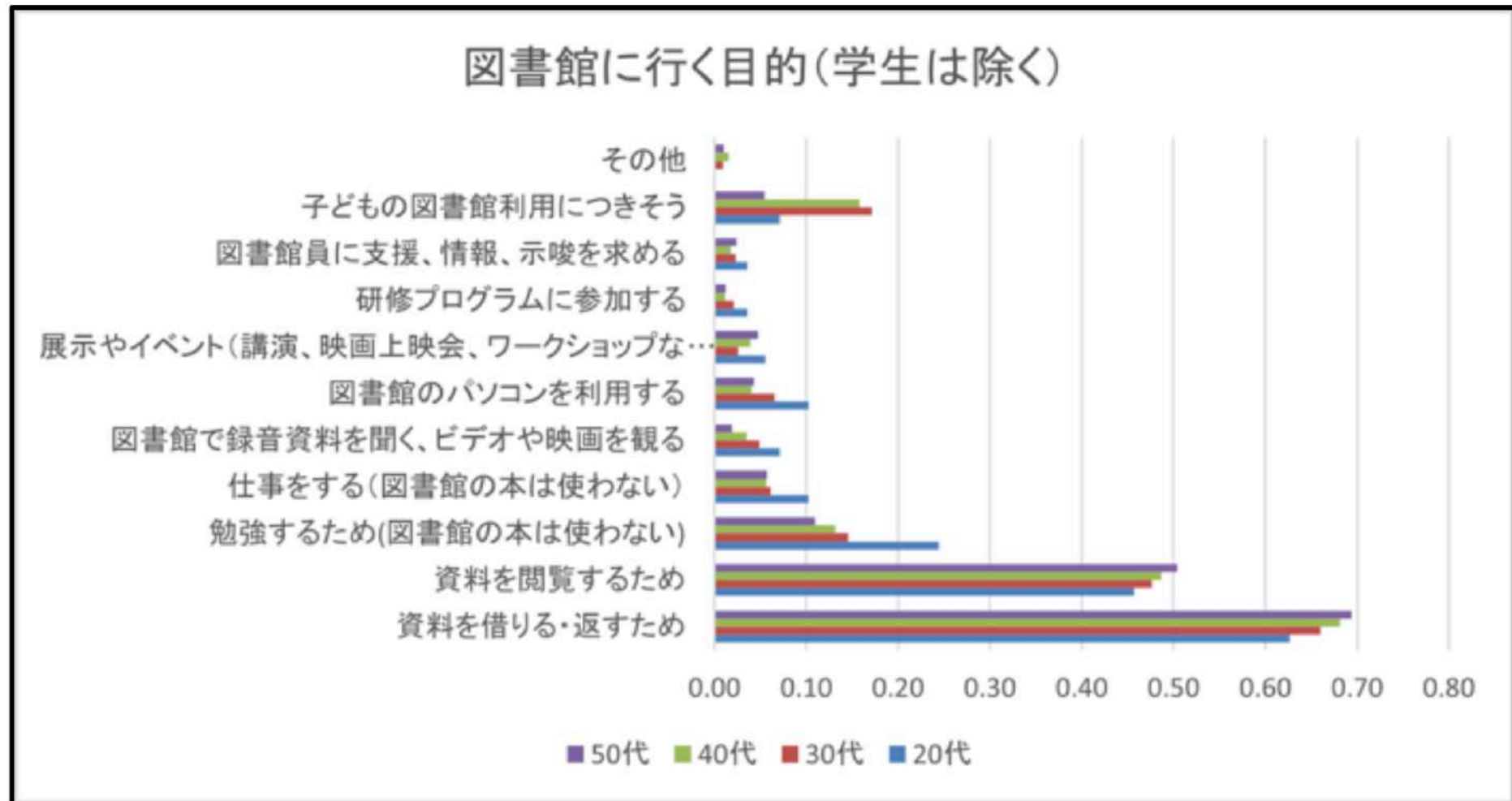
# 世代別実利用回数（八王子）



# 全国の読書傾向



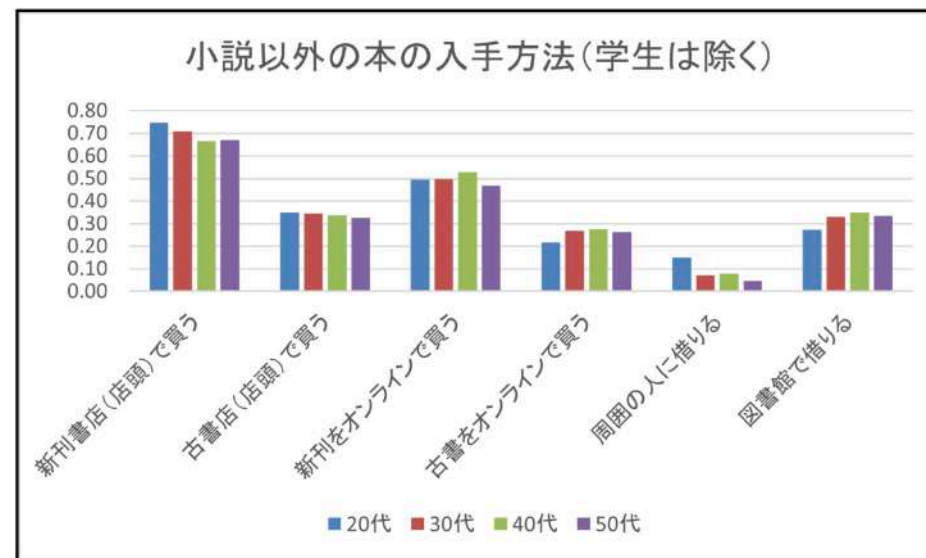
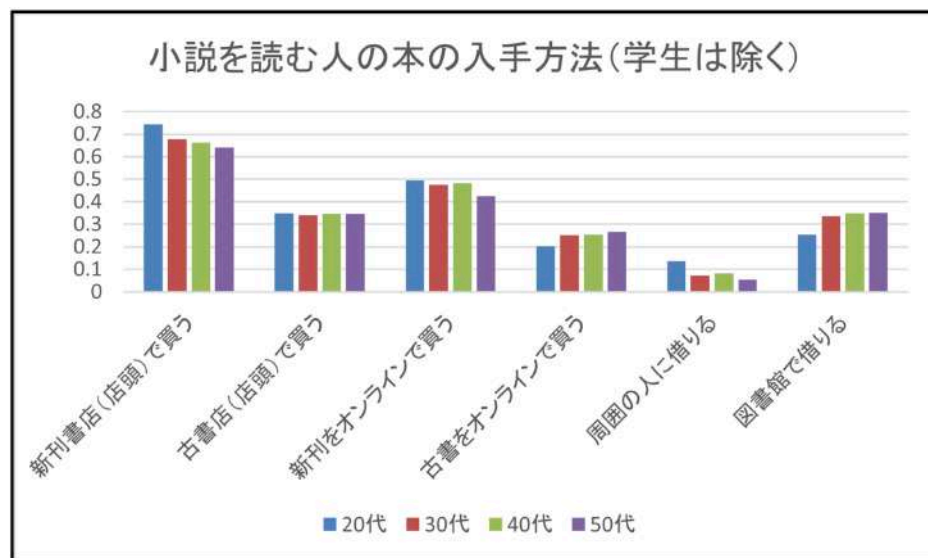
# 図書館に行く目的（全国）





# 本の入手方法（全国）

- ・図書館で借りるのはシニアのほうがその傾向が強い



- ・読書量に世代間の顕著な差はない
- ・若い世代は「作業スペース」としての利用が目立つ
- ・本の入手については若い世代ほど図書館以外を用い、上の世代ほど図書館を利用しがち

- ・ 中央図書館と生涯センターの2つ以外の図書館を「地域密着型図書館」と呼び、利用促進を目指すというのではないか
  1. 図書館に全く来ない人をターゲットとしにカフェやレストランの併設をすることを提案
  2. 図書館には来るが貸し出しサービスを利用しない人をターゲットとし、スタンプカード・ポイント制度の実施を提案

## 利用促進案①

- ・ 図書館に全く来ない人が図書館に足を運ぶ

ことを目的とした案



→ カフェやレストラン（タリーズ・スタバ...）を図書館の中・付近に併設する

- 作業場としての活用
- リラックス・コミュニケーションの場として
- ついでに本に興味を持ってもらう



36

## 利用促進案②

- ・ 図書館には来るが本を借りない人が  
本を借りることに興味を持つ



ことを目的とした案

➡ 作業場としてだけでなく、「本を活用する場所」として図書館を認知してほしい！

- スタンプカード・ポイント制度
- 一定ポイントたまったら文房具と交換
- 本を読む「動機付け」としての役割を期待



38



- ・ 2022年度の八王子図書館利用データおよび関連するデータを用いて，同年度の図書館利用状況を地図上に示した
- ・ （とくに地域密着型図書館に向けて）八王子図書館の世代別利用状況と全国の読書傾向調査を付き合わせ，図書館の利用者を増やし活性化させるための方策を検討した